


| | | |
|-------------|---|---|
| 研究テーマ | モデルを使った社会や関係の可視化とその把握 |  |
| 担当者名 | 平原 隆史 | |
| ゼミの関連キーワード | 社会的ジレンマ、社会ネットワーク、数理社会学、社会の可視化 | |
| 各研究の概要 | <p>【ゼミナール1】</p> <p>春学期はオムニバス形式であるので、毎年内容が異なる部分もあるかもしれないが、基本は見えない関係を可視化するための方法を学習し、実際に役立てるようになっていることを目的としている。秋学期は、自分の解決したい問題を決めて、そのためにはどのような調査をし、研究していけばよいかを、発表や、先行研究文献の講読を行いながら、自分の問題意識を整理し、本当に解決すべき問題を探り出すことを目標としている。</p> | |
| | <p>【ゼミナール2】</p> <p>基本的にモデル構築に必要な諸学問に関して、複数分野の概説書を輪読し、内容に関して分担してプレゼンテーションを行う。各学期最低1冊計2冊以上のテキストを輪読する。講読する分野は、社会的ジレンマ論、社会ネットワーク論、行動経済学、環境経済学などを予定している（履修者の関心や希望により講読する分野は変更の可能性あり）。これにより、文献内容の正確な要約（情報圧縮能力）、自分の意見に関するプレゼンテーション能力を養う。</p> | |
| | <p>【卒業研究】</p> <p>基本的に個人作業となるが、必ず卒業論文を完成させることが目的となる。なお論文は、研究内容に何らかのオリジナリティーを持たせること、実証研究として必ず個人の研究課題や命題に対して、データや経験的事実に裏打ちして証明するものでなくてはならない。そのため、論文作成にはデータの解析ないしはインタビューやアンケートの実施は不可避である。なお、研究テーマに関しては、「社会」か「環境」に関わる問題であれば、そのジャンルは問わない。</p> | |
| 過去の卒業論文の題目例 | 基本的に「社会」「環境」に関わるものであれば、広く受け入れる。2022年度卒業論文の例としては、「都市部と地方による古着の購買意欲に関する調査」「居住地域と子育ての満足度に関する研究」「スポーツ界をめぐる差別問題」「三番瀬に関する地域住民の損失回避性」などと多種多様である。 | |
| 履修上の注意 | 自分なりに気になる問題を様々な視点から眺めるような好奇心と問題意識を持つことが重要。また他人の関心にも好奇心の翼を広げるようなマインドを持つてほしい。 | |
| 関連する課外活動 | 特にないが、課外活動は積極的に行ってもらいたい | |